

1. はじめに

12月に入り氷点下を記録することが常となり、雪もよく降るようになりました。今月は先月の報告書に書いた通り、これまでの留学を通して感じたこちらの留学生や現地の人について改めて見つけなおし今後の抱負を述べたいと思います。

2.

RITは留学生が多いですが、その大半はアジアから来ているように感じます。アジア人といっても中国人とアラビック、特にサウジアラビア、からの留学生が多いです。彼らに共通するのが、帰属意識が強いということです。基本的にアラビア系と中国人は自国のみで構成されたメンバーでずっとつるんでいるようにことが多いです。毎日自国に住んでいる親に電話するのが当たり前であったり長期の休みには自国に帰ったりする人が多く、そういう意味で自国と家族に対する帰属意識が強いと感じています。とはいえこちらから誘うと快く受け入れてくれる場合が多いのですが、やはりグループ外との交流はあまり積極的でないようにも思えます。また、自己主張をよくすることが挙げられます。講義中などでも思うのが、間違っているが言いまいが自己主張をとりあえずすることが多いです。

一方で、アメリカ人、アメリカに長年住んでいる人々はコミュニティの敷居は全くなく、多くの場合彼らから誘ってもらって遊びに行くということが多かったです。彼らは本当に誰とでも仲良くなる事が出来るように感じています。ある人に誘われていたら全く知らない人に家に遊びに行くとその家の人と仲良くなってということにどんどん交流の輪が広がります。また、以前のレポートでも書いたように英語が第一言語でない国から来た人たちに対しての理解や障害者への配慮もあり、色々と積極的に物事に取り組む印象があります。彼らも帰属意識が強くアメリカ第一という考えや家族と連絡をよくとるのはアジア系と大差ないと思いますが、グループ外の交流に積極的であるように感じています。さらに、彼らは間違いと思ったらすぐに方向を変えて進む力があるように思いました。学科変更を数回したり、働いていてもオンライン学習で、興味はあったが学べなかった分野を学びその分野関係の会社に就職したりする人もいました。

実は、12月後半から **New York City** でホームステイをしているのですが、そこで多くの日本人と交流する機会を得ることが出来ました。キリスト教に改宗した人や仕事を休業してきた人たちやこれから世界中を旅する方、同じように留学中の休暇できた方にお会いしてお話を伺うことができ大変有意義な体験をさせていただいています。個人的に大学内で日本人と中国人・韓国人の留学生数に比べると昨今日本企業が電化製品関係で後れを取っているのが端的に分かるぐらいだったので、日本人が国外に出ないことに対してネガティブな印象がありましたが、それでも国外で働く、学ぶ日本人はいて、彼らと触れ合えていることは自分の視野を広げることに繋がっていると思います。

3. 終わりに

当初は、せっかくの留学なので日本人ばかりとつるまないように思っていたのですが、自国の人を除外して触れ合うよりも人種・国籍にとらわれず相手の経験や価値観を学ぶことの重要性を改めて学びました。また、なによりも自分からコミュニティに飛び込んでいくこと、それが国際色豊かなアメリカでの生活で最も大切なことだと思います。1月中旬には最後の学期が始まります。KITの交換留学生であることを忘れずに勇往邁進していきたいと思えます。